

シルバー

エコー



第263号 平成25年10月10日
公益社団法人 三田市シルバー人材センター
〒669-1323
三田市あかしあ台5-32-2
電話 564-7501
FAX 553-1300
Eメール sandasilver631015@sandasc.org
ホームページ <http://www.sandasc.org/>

Eメールとホームページのアドレスが変わりました。旧アドレスは、
来年の3月まで使えますが、ぜひ登録の変更をお願いいたします。

平成25年度上半期事業実績

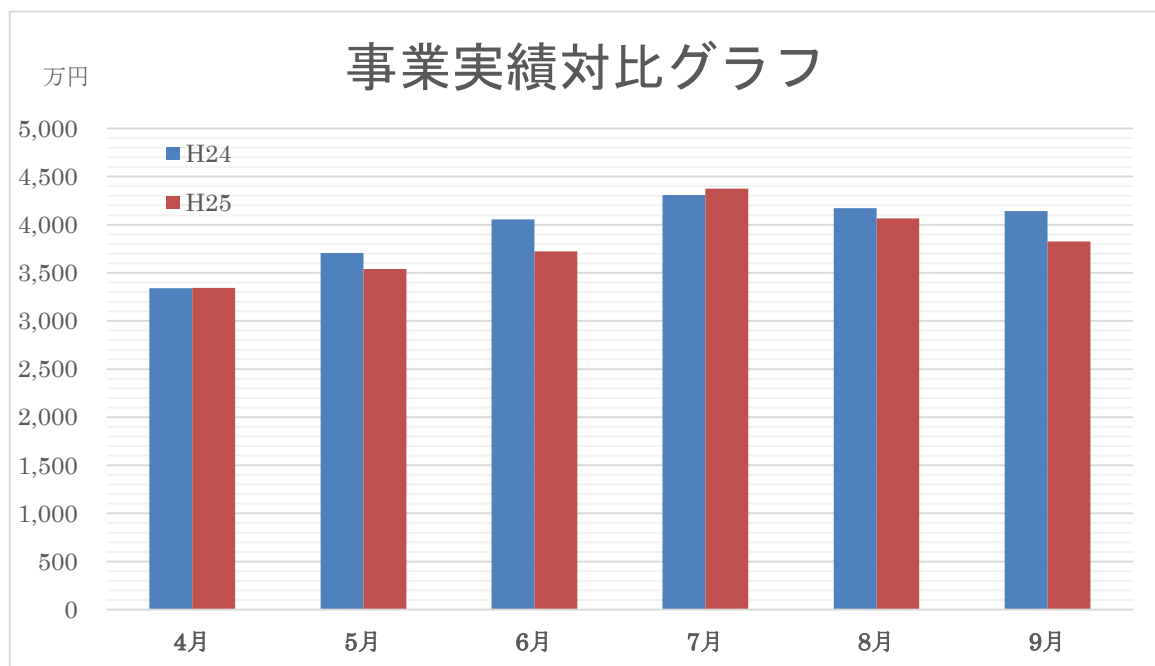
平成25年度上半期事業実績について、9月末現在の会員数は 1,055 名(男:779、女:276)で、昨年同
期より 11 名の増加となっています。平均年齢は、70.7 歳(男:70.8、女:70.3)となり、若干高齢化が進
んでいます。

事業実績は、2 億 2887 万円で昨年度と比較して 821 万円の減少となりました。

月毎の実績では、昨年度を上回っている月もありますが、継続就業の減少が大きく影響しています。
主に、金属加工を含む技能分野(対前年度比-19.1%)や、駐輪場管理業務が縮小された管理分野(-
7.8%)、介護補助作業を行っていたサービス分野(対前年度比-41.7%)の落ち込みが目立ちます。

公共民間別で見ると、公共は駐輪場管理業務が減少したものの、ほぼ同額を全戸配布で取り戻せて
います。企業及び一般家庭はいずれも減少傾向で 800 万円以上の落ち込みとなりました。

今後も、適正就業の取組みを推進していく上で、継続就業減少傾向となる厳しい状況ではありますが、
年度当初の予想よりは、緩やかな減少となる見込みです



第8回シルバー感謝祭 実行委員会発足し準備進めています

先般、全理事・全地域班班長・全サークル代表に集まって頂き、キックオフ会議を開催し準備を進めています。昨年度の反省も踏まえて、より一層楽しいものにしたいと思っています。実行委員会組織を紹介しますので、気軽にご相談下さい。

実行委員会組織

| | | | | |
|---------------|---------------|-----|-------|-------|
| ■委員長 | 野入理事 | | | |
| ■バザー部会会長 | 眞野理事 | 副会長 | 山村理事 | ・岩磨理事 |
| ■発表部会会長 | おおがき 大 塚理事 | 副会長 | 岡田理事 | |
| ■展示及び事業PR部会会長 | 内田理事 | 副会長 | 八重倉理事 | ・寺戸理事 |

当センターの歴史（第1章 昭和63年～平成5年）

平成3年（1991年）

広報誌第1号発行・当センター事務所福島に開所
会員誌も今とは隔世の感がありますが、B5版1枚（コピー紙）両面刷りでした。
会員数男124名女68名。電話番号も局番は2ケタです。
当時 三田市で1億円の住宅が売りにだされ話題になりました。

平成4年（1992年）

独自事業が盛んで（野菜・花・木工）福島に新作業所オープン
野菜や花を栽培し、三田魚菜市場に卸していましたし、女性会員の方が行商もされました・
三田市（都市施設整備管理公社）の花一杯運動の委託で、花の苗もつくっていました。

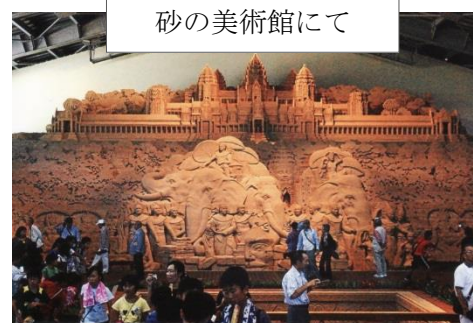
平成5年（1993年）

設立5周年記念式典・カラオケグループ、歩こう会の同好会の発足
この年度には会員数も400名程になります。そこで安全推進委員会の設置要項を制定。年5回の入会説明会も行われました。

山陰ジオパーク浦富海岸遊覧と砂の美術館～余部鉄橋へ旅行

9月17日台風一過の快晴の中、ウッディA・B班では今年度の日帰り旅行として、鳥取方面へ行きました。

参加者は40名、砂の美術館見学の後、地元の海鮮料理に舌つづみを打ち、その後浦富海岸の島めぐり遊覧船にのり、珍しい洞門や、海から見える鳥取砂丘をながめました。台風の余波で、少々船がゆれましたが、青い空、広い海と、久しぶりに大きな自然に身をまかせ、解放感を味わいました。再びバスにのり、余部の鉄橋の空の駅に向かいました。何と高い所に駅が！駅からながめる日本海の水平線を見て、大きな心を持ちたいと会員の方が言われていました。初めてお話しした方もおられます。今後ともよろしくとの挨拶も聞きました。午後6時30分ウッディ市民センターにバスが着き、全員無事に家路につきました。



<こんな仕事あります>

- : (担当小川)
コース管理/グリーン刈 (1人/男性) 70歳迄
6:00~9:00
月 15日 普通免許要 視力要
- : (担当小川)
灯油販売・カート整理・商品整理他 (4人/男 70歳迄)
9:00~18:00 (4~5時間シフト)
週 3~4日 (交代制有)
- : 東本庄 (担当小川)
屋内雑役作業 (薬品の仕分け・包装/ラベル貼り)
8:45~17:00 (交代無し)
月15日・男1人 (70歳迄) 10kgの運搬作業有
- : 赤松台 (担当森本)
野菜の加工 8:14~17:15
月10日 男5人 (交代無し)



各地域イベントの案内

- 10月13・14日 藍市民センターまつり (藍・本庄班参加)
- 19・20日 ありまふじフェスティバル
(手作りコットン・竹炭参加)
- 27・28日 高平ふるさと交流センターまつり
(高平班参加)
- 有馬富士共生センターまつり (小野班参加)
- 11月 9日 シルバーまつり (竹炭参加予定)
(猪名川町シルバー人材センター主催)

兵庫県シルバー人材センター事業推進大会のご案内

日時; 10月31日 (木) 13:00~16:30
場所: 神戸新聞文化情報ビル4階松方ホール
次第: 表彰式・講演「黒田官兵衛」・事例発表他
参加は一般市民、会員誰でも参加できます。

入会説明会のご案内

お知り合い、ご近所の方をお誘い下さい。
10月24日 (木) 13:30~
11月28日 (木) 13:30~

笑顔研究所
あなたが笑顔になる時は...

岡村由紀枝 さん



こよなく愛するワンちゃん達。あずき、だいず、もなか、なんと愛くるしい名前でしょう。家事に疲れたとき、仕事に疲れとき、この子達と遊ぶと自然に笑みがこぼれます。

あした 蘆田さとみ さん

我が家の天使。ただいま11ヶ月。



たちしてもうすぐ一歩が出そうです。このお孫さんを中心に家族の団欒。皆の心も弾み会話も弾みます、とても幸せなひと時。自然に笑みがこぼれます。

(O記)

新入会員紹介（順不同・敬称略）

今回は14名の方が会員登録されました。

個人情報保護のためお名前は伏せています。

入会説明会

10月24日 13:30

11月28日 13:30 から事務所で開きますので

お問い合わせ、ご近所の方をお誘い下さい。

入会ご希望の方は事前に事務所までお電話下さい。

10月11日からの行事予定

10月16日（水） 仕事の相談日

24日（木） 入会説明会

11月 5日（火） 福利厚生部会

当センターでの仕事相談日は11月20日（水）と
12月18日（水）の10時から12時です。



栗の渋皮煮

10月に入り秋らしくなってきました

した。秋と言えば“味覚の秋”。サンマ・梨の次に栗が
ランクインされています。「栗おこわ」「ゆで栗」「栗き
んとん」そして「栗ごはん」等、美味しいですね！

ところで栗の「渋皮煮」を作られたことはありますか？
ない方は、この秋一度挑戦してみられてはいかがでしょうか？
色々な作り方がありますが、我が家のレシピ
をご紹介します。



栗の渋皮煮

材料 栗 1 Kg 砂糖 250g～

300g 夕柑小3



作り方

①栗の鬼皮を剥く（傷がつくとそこから壊れやすい）

栗のお尻は剥かない（湯がく過程で柔らかくなる）

②鍋に栗+ひたひたの水+夕柑半分小1と1/2

火にかける 強火→沸騰後弱火 10分

鍋に水を入れぬるま湯の状態、渋皮を指先でなでる
ように取る。お尻の皮も取れたら取る。

③もう一度②を繰り返す。

④栗+ひたひたの水で火にかける。沸騰後弱火 5分煮る。

最後3回目の手入れで、なるべくすべての渋皮を指で
なでるように取る。（取れない時は、爪楊枝の頭の部分
でゆっくりこすっても良い）

⑤栗+ひたひたの水+砂糖で火にかける。沸騰後弱火

30分で火は消し、そのまま置いておく。

※この時点で、まだしっかりと味は浸みしていませんが、
2～3日は、毎日火を入れる（沸騰させてすぐ止める）
その後冷蔵庫に入れて早めに食べる。

注意！どの時点でも、ぐらぐら煮ると栗がつぶれる
のでご注意下さいね。

（O・A記）

次の配分金お支払日は11月11日です

| 項目 | 平成24年度 | 平成25年度 |
|---------|-------------|-------------|
| 会員数(人) | 1,044 | 1,055 |
| 受注件数(件) | 1,831 | 1,055 |
| 契約金額(円) | 237,088,099 | 228,872,886 |

（平成24年度・25年度9月分迄の累計）

伝言板

安曇野に立つ

私事で申し訳の無いこと乍ら、私のルーツの半分は北
信濃の安曇野にある父の出生地です。

秋のお彼岸でもあり、1日ですが、いってみようと思
い立ちました。急峻な北アルプスの山並みを朝日が刻一
刻と姿が変わる如くに見事に照らしてゆく様には感動
しました。啄木の一節「ふるさとの・やまにむかいて・
いうことなし」を思わず口ずさんでいました。“父の愛
は山よりも高し”と古来より教えられてきましたが、今
更ながらに明治の男の教えを思い起こさせました。

今回はもう少しゆっくりと父の故郷を歩いてみよう
とおもいました。

（Y・M 記）

